※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目　三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140　炭鉱　474・528
※責任者＝文教部長　下川秀子

親子が楽しく討論
馬渡分会での親子討論会

宮浦支部馬渡地域分会・主婦会では、三月二十五日青空親子討論会をひらいたが、親子で真剣に語り合うとの討論は、子供たちにとって学校教育とはまた別の面で大きな成果をあげることであろう。ちなみにこの馬渡分会では今年の高校進学に全員合格という成績をあげており子供の努力もさることながら、地味な活動も決して見逃せない大きな要素をもっている

司会　皆さんが家の中で勉強するとき、お父さんが三番方などのため、何か勉強する上で困るようなことはありませんか。

父親　学校がひけて、少し遊んですぐ勉強する習慣をつけると、父親が三番方のときも、また夜のテレビもそう勉強に影響しないと思いますが。

子供　勉強せろせろといわれるとかえってしたくなくなる。

母親　皆さんたちに聞きたいが、そういうときはどうすればよいか教えて下さい。

……これは、馬渡分会での親子討論のもようである。

馬渡分会でこの青空討論会をひらいたのは、今から四年前のことで非常に成果をあげて終わり、いらいこの討論会できまったことが、今日までよく守られているという歴史をもっている。

そのど、闘争の関係で二時中断していたが、今回それを再開したわけである。

この日も文字通り、青空の下でのびのびと討論をやる予定であったが、天候の関係で急にはだ寒い日に変ったため、やむを得ず会場を闘争本部に移して実施された。

集まったのは中学生から小学生の子供たちと、お父さんお母さん、それに地域分会の役員や育成会のおじさんたちである。

討論の内容をもう少しのぞいてみよう。

議長も親子で

司会の緒方分会長が、自分で丹念に作製した資料を引き合いに出して遊びの問題で討論を投げかけている。

司会　この資料にあるようにさいきん鉄砲や弓矢遊びなど危ない遊びがはやっていますが、皆さんたちどう思いますか。

とたんに、子供の中からさっと手があがる。指名された子供は立ち上がって

子供　わざとガラスを破るつもりはありません。みんな注意して遊んでいます。こういう遊びをやめると遊ぶのがなくなります

母親　近ごろ花火をとばせる遊びをやっていますが、この前買物に行くときとんできて買物などに入りました。火がついているから危いと思いますが。

司会　いまお母さんからいわれたことをどう思いますか。

子供　花火遊びはやめてもよい。おんぶしている赤ちゃんにでも当るこあぶないから。

司会　では弓矢遊びはどうですか

子供A　やめてよい。

子供B　やめんがよい。

と意見が二つに分かれた。

このとき議長（父兄から子供から一名ずつ選出されている）さんが意見をまとめるというわけである。

こうして、討論はこんどは必然的に健康な遊びの方にもって行かれその問題で討論がつづけられてゆく。

生きた社会勉強

こういうふうに討論はこの日「子供会の行事」「勉強の方法について」「テレビを見る時間」「遊びの問題」「睡眠中の黄旗と遊びの問題」「暴力の問題」とつぎつぎにつづけられてゆく。

司会者が説明してゆくとき「……で無関心の人がいます」と発言するや、とたんに子供側から「無関心とは何のことですか」と質問がとび出す。

やさしく分りやすい言葉を使わなければならぬため、司会者やお父さんお母さんも語す言葉に神経を使わねばならぬため、大変だ。

こうして討論会は、親子が心の底から和やかに話し合いをもち、どちらの側も人権を尊重してゆくこの討論は、全く民主的でありそのため苦労も大きいが、しかしそのことによって子供たちは、自分たちの考えを発表する大きな勉強になり、共同生活・民主主義というものがどんなに大切なものであるかを、知らず知らずのうちに身につけていくように思われた。

和やかな中でつづく親子討論

高校全員合格
日ごろの努力で結実

馬渡分会の子供会の活動は闘争前から活発に行なわれていた。その裏には地域分会・主婦会・育成会の努力も大きかったことはいうまでもない。

ことしの大きなニュースとして高校全員合格の朗報がある。

馬渡分会から十三名が受験した。同じく第二組合の子供からも八名が受験したが、こちらは全員合格第二組合は四名合格、しかもこちらはほとんど公立高校である。

日ごろの努力が、いまてそはつきりとその結果を明確に物語っている。

市民福祉行事を
荒尾市制二十周年記念行事に思う

事務局長　島　文枝

荒尾市では来る四月八日、市制二十周年を記念して約二百万円に近いばく大な金額を投じて、自衛隊によるブラス・バンド、ミス荒尾のコンクール、提灯行列等と、線香花火式のお祭りさわぎに終るような行事計画がされています。

これについて私達は、市制二十周年を記念した恒久的に残る市民の福祉のための事業を考えるべきだとして、奨学資金制度、老令年金制度、工業高校の設置等の基金を要求して、革新議員を中心に署名運動を起して、市民の声を陳情してきました。

とくに三月十五日は午後四時三〇分から荒地評主催の陳情大会をひらき、十名の代表団を出し（うち主婦会四名）古閑市長に面会を求め、それぞれに記念行事に対する考え方を述べ、市民の切なる要求を訴えてきました。

市長は「正式な陳情書を市議会に出してくれ、市議会が取上げれば検討せんでもないが、市議会が採択したからといって必らず履行せ

荒尾市民としての、三池労組主婦会員を無視した全く不誠意な態度です。

このような経過の上にたって主婦会としては、二十周年の記念行事にのぞむ態度をつぎのようにきめました。

マスゲームには参加出来ないが、組合が選定したスポーツの種目にかぎり、個人参加として出場するということに決定しましたので、私達はあくまで市民の福祉のための記念行事を要求する態度を堅持して行きたいと思います。

困難に負けられぬ
綿打業で頑張る吉村さん

私たち一、二〇〇名が会社を追われ離職してから、満一年半は夢のようにすぎました。

私の思い立ったのは綿打業で、地域にいるときも暇をみて近くの同業者の家に見習いに行きました。

さて、いざ実行となるといくたの障害がありました。まず第一に資金です。少い退職金で工場も建てねばならぬし、打綿機も当時島原で同業者が使っているのでは、玄人には太刀打ちできないので、最新式のオートメイション機をすえつけ、防じん装置もとりつけました。

つぎは動力線です。私の家が動力本線から四〇〇メートル離れているので電柱四本を新設しなければならず、これではわずか三馬力のモーターのためばく大な資材がいるため、九電が承知するはずがありません。結局、根気よく何回となく交渉し配線ができました。

やれやれとする間もなく第二の障害がきました。新らしい機械をすえても品物がよらねば何もなりません。二十六年ぶりに故郷へ帰ったため故郷の事情もわからず、しかも商売はズブの素人です。おまけに開業を聞いて綿打組合から組合加入をいってきました。結局組合の幹部と何回も話し合った結果十日間のけい古期間をもらいました。

私はその十日間タオル、宣伝マッチを大量に製作し婦人会を通じて各部落に配るとともに、中学生を数人たのみ、私がメガホンでいくり日も宣伝してまわり、どうやら軌道にのせることができました。

昨年一年間の仕事は五月七五貫、六月一一〇貫、七月一四〇貫、八月一六五貫、九月三五五貫、十月二二〇貫、十一月八〇貫、十二月五五貫です。予想外に仕事があつたのです。

こうして多くの障害をのりこえ、人に頼らずやつたのも、ひとえに私が三池で学んだ固い信念と、何事にもくじけぬ心がもつたからではないかと思います。

そればかりではない。五千名の三池労組員と千二百名のわれわれ同志の陰の力があつたればこそです私はいつも三池労組のバッヂを胸にして作業しています。

とくに七、八、九、十月と真夏がこの商売の最盛期です。真夏の太陽が照りつける日中に、真っ黒に日焼けして一戸一戸注文をとるのですが、こじき同然です。目もくらみ体もふらふらになり、木陰で休みたい気持ちになりますが、こういうとき組合のバッヂを見つめ「おればかり苦労しているのではない、戦っている組合員も差別や労働強化に耐えてがんばっているのだ。千二百名の仲間もとりに苦しんでいるのだ」とバッヂが私に言いきかせているような気がして自然と勇気がわいてきます。

いまは第三の障害が押し寄せてきています。これは短年くるのではないかと思つています。

ご承知のように十二月から四月までは綿打直しがありません。これをどうのり切るかが大きな問題です。だが、私はくじけません。私は毎日寒のり拾いをして時節のくるのを待っています。

皆さん苦しいでしょうがお互いにがんばりましょう。

私はことし二千貫、来年三千貫目標でがんばります。そして私たちの行動の正しかつたことを一般の人にわかつてもらうため、一人でも多くの仲間をつくる覚悟でいます。

吉村上則

編集部注＝吉村さんは四十八才三川支部出身です。住所は長崎県南高来郡深江村瀬野です激励の手紙を送りましょう。

カンパの鉛筆を貰う新港のよい子たち

よい子たちへ　鉛筆一万本
東京荒川の仲間から

〝三池のよい子たちへ〟と、去る三月のなかば東京都職員労組荒川支部三池を守る会から、鉛筆一万本がおくられてきました。

差別と組織切りくずしに屈せずたたかつているわれわれに対して、新学期をひかえた三月、すこしでも子供たちへの足しになればと、連帯の真心を鉛筆にこめておくられた貴重なカンパです。

この鉛筆は特製のもので、鉛筆の表側には「一九六二年なかよくがんばろう」、裏側には「都職労荒川支部三池を守る会」と一本一本に刻まれています。

都職労荒川支部三池を守る会では、こんどの鉛筆ばかりでなくこれまでにも数回大塩のカンパをわれわれにおくつております

おくられた鉛筆は早速各支部ごとに分けられ、各支部では地域ごとに、そして地域の役員からよい子たちへおくられました。

新学期をすぐ前にひかえ、この鉛筆はよい子たちへの思わぬ大きなプレゼントとなり、よい子たちは〝荒川のおじさん・おばさんありがとう、しつかり勉強します〟と大喜こびでした。

たびたびカンパをおくり激励を寄せる荒川の仲間たちに、われわれは心の底から感謝し、こんどのたたかいを誓い合っているが、暖かいカンパにみんなでお礼の手紙を出しましょう。住所はつぎのとおりです。

東京都荒川区荒川区役所内
都職労荒川支部三池を守る会

こっそり分会旗おくる
第二組合員が馬渡分会に

第二組合はスト権を二年間売渡して以来、職制の支配がますます強化され、無権利状態はさらにひどくなつているが、下部ではしだいに不満がたかまつており、それが次第に事実となつて現われだしている。

宮浦支部馬渡分会にこのほどとく名で地域分会旗が寄贈されたが、これが第二組合員からのものであつた。

さる二十二日、馬渡分会では主婦会班長会議をひらくため闘争本部をつかうことになり、掃除しようとおもつて戸をあけたところ、真新しい分会旗に手紙を添えておいてあつた。前後の事情から見て前つて、お送りいたします。

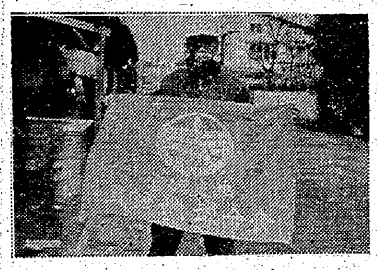
馬渡の空に高くかゝげてください。皆さまのご健闘をお祈りいたします。

分会、主婦会さま

分会旗は赤に白く馬渡地域分会と染めぬいてあるふつうの分会旗。

緒方分会長も〝こういう人間が第二組合にはいるとすばらしい〟と語つていた。

三池労組の労働者としての正しい姿勢を堅持する存在は、第二組合員にとつても大きな精神的なよりどころとなつており、分断化の強行で職制支配がつよまつたさいきん、第二組合員の不満がいよいよ現われればじめていることを、この事実は物語つている。



脱